

2019年が始まりました。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

みなさん元気に新年を迎えられたでしょうか。今年は『亥年（いのしし）』ですね。子年（ねずみ）から始まり十二支の中で最後の亥年は、「次の始まりに向けて新たなエネルギーを蓄える年」なのだそうです。また、猪突猛進の性質から「勇気と冒険の象徴」ともされています。なんだかとてもたくましい年ですね。今年もいろいろなことにチャレンジするみなさんを、ほけんしつからおうえん応援します！！

ふゆやす ちゅう 冬休み中に…

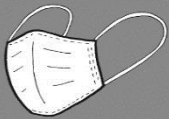
- 大きなケガや病気（感染症）など、体調の変化はありませんか？
- 薬の内容や量に変更はありませんか？
- 歯科や耳鼻科など治療は終わりましたか？
- 緊急連絡先の変更はありませんか？

子どもたちの健康に関する事で学校へ伝えておくことがあります。連絡帳等を通じて保健室までお知らせください。



《インフルエンザ情報》 本校では、1月現在で2名です。流行期本番はこれからです。去年は1月後半から急増し、2月初旬、拡大防止の措置として学部閉鎖を実施しました。

《その他の感染症情報》 埼玉県感染症情報センターによると、溶連菌感染症と伝染性紅斑（りんご病）が11月後半から例年になく急増しています。発熱がない場合もあり、風邪かな…と思っているうちに感染を広がってしまうことも。外出後は念入りに手洗いを行ない、こまめな水分補給でのどの乾燥を防ぎましょう。



マスクって、ホントに予防できる？

かぜ・インフルエンザ予防の定番アイテム、マスク。冬になると、マスクをつけている人をあちこちで見かけます。でも実は、かぜ・インフルエンザの原因である「ウイルス」は、マスクの網目を通りぬけてしまうくらい小さく、では、どうしてマスクで予防ができるのでしょうか？

マスクの働き
その1

マスクを正しくつけると、自分がかく息の湿気で、のどや鼻が乾燥しにくくなります。ウイルスは乾いたところで活発になるため、湿気を保つことで活動を抑え、感染しにくくすることができます。

マスクの働き
その2

かぜやインフルエンザにかかった人がせき・くしゃみをすると、鼻水やつばと一緒にウイルスも体の外に飛び出します。マスクで鼻水やつばを止めることで、ウイルスの飛び散りも防げるのです。



おうちの方へ

かぜ、インフルエンザ、
感染性胃腸炎などが
はやる季節ですので、
毎朝、お子さんの健康観察を
お願いします！

- 熱は？
- せきは？
- 吐き気は？
- 体のだるさは？
- 鼻水は？
- のどの痛みは？
- 下痢は？
- 体の痛みは？



学校は集団生活であるため、感染症が広まりやすい環境です。100%予防できるわけではありませんが、こまめな手洗い、食事・睡眠・運動、体の保温など小さな工夫が、免疫力を高め、辛い発熱や嘔吐を防ぐことにつながります。



感染性胃腸炎



ノロウイルス感染症は、特に冬場に流行します。手や食品などを介して口から入り、吐き気や嘔吐、下痢、腹痛、発熱などを引き起こします。感染力が強く、一度かかってもまたかかることがあります。ワクチンもないため、大切なのはかからないことです。

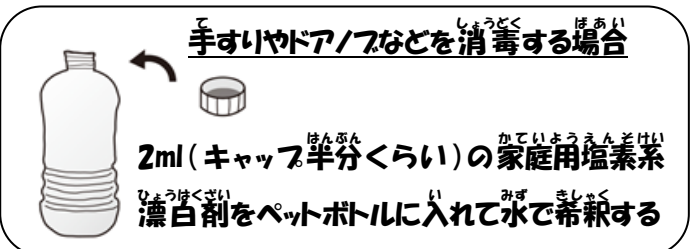
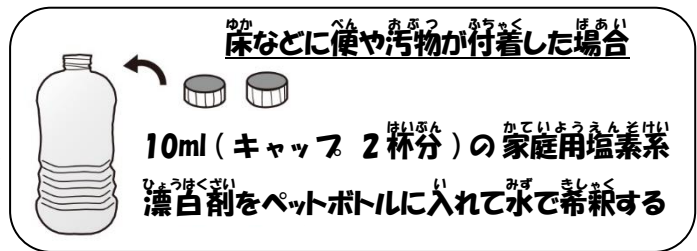
◆嘔吐物や排泄物は適切に処理しましょう◆

感染者の嘔吐物や排泄物はウイルスをたくさん含んでいます。これらを適切に処理しなければ家庭内でも感染が拡大してしまうので、ウイルスを含む嘔吐物や排泄物は殺菌効果のある消毒液を用いて確実に処理をしましょう！！

～家庭でできるペットボトルを用いた消毒液の作り方～



☆次亜塩素酸ナトリウム濃度5%の場合



◇誤飲の恐れがあるので、消毒液は必要なときに必要なだけ作るようにしてください。作り置きをしたり、余ったものをそのまま放置するようなことはしないようお願いいたします。

◇処理する人は、汚物が衣服などにつかないよう、使い捨ての手袋・エフロン・マスクを着用し、履物(スリッパや靴下)の裏の消毒も忘れずに行ないましょう。そのまま歩いてしまうとウイルスを広げてしまうこととなります。

◇消毒後は換気を行ないましょう。

急な発熱や嘔吐で、保護者の方にお迎えをお願いすることがあります。お出かけなどで連絡先に変更がある場合は、連絡帳にてお知らせください。また、感染拡大防止のため、汚物は洗い流さず、そのまま袋に入れての返却となります。ご了承ください。